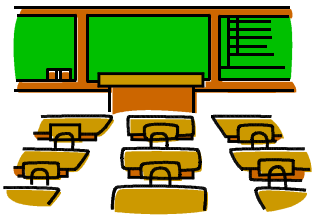
物語の勉強５



校長先生プレゼンツ

初発の感想の書き方

（これは授業が始まったら先生と勉強してください。その前に少し予習しましょう。）

物語の勉強をすると、多くの先生は「このお話を読んでカード（ノート）に感想を書きましょう。」と言います。初めて書く感想なので「初発の感想」と言います。やがて、これが集まって、みんなで勉強するための大切な「読みのめあて（課題とも言います）」に発展します。だからとても大事な感想です。

しかし、この感想がいいかげんなものだと、読みのめあてになれません。したがって、今日はより良い初発の感想を書くための秘訣を教えます。（注意；これは「読書感想文」の感想とはまったくちがいます）

＜こつ１：1ヶ月以上前から読み込む→「初読」の感想ではダメ＞

あらすじがはっきり言える（書ける）くらい、何回も音読しながら読み込みます。低学年は、全文暗唱できるくらいです。これはその勉強に入る 1 ヶ月くらい前から取り組んでください。この読み込みが浅いと、低学年の「お手紙」ならば、

- がまくんは何でがまくんという名前なのかな。
- ぼくもかたつむりは好きで飼っていました。
- お手紙は書くのがめんどうだからわたしは嫌いです。

など、読んだ感想と言うよりも、今だけ思いついたこと、お話とは関係ないこと、自分の好き嫌いなどを書いてしまいます。これでは、読みのめあてになれません。

＜こつ２：話のはじめと最後に目を付ける＞

良い感想をもつには、お話の最初と最後を比べるといいです。物語は、主人公を通してお話が大きく変化するように書かれていることが多いです。つまり、最初の主人公と最後の主人公はかなり違います。その辺りに気をつけて感想を書きましょう。

＜こつ３：「疑問文」で書くようにしよう＞

疑問は?ですから、考える大元です。疑問文で感想を書くとめあてに結びつきやすくなります。また、単に疑問だけでなく「きっとこうなのではないか」という自分の予想も書くと非常に良いです。もう一度「お手紙」をもとにして、良い感想の書き方例をあげてみます。

〇がまくんは、はじめは「ふしあわせ」と言ってたのに、さいごは「しあわせ」と言っている。どうしてなのだろう。いつから（どこから）しあわせになったのだろう。

〇がまくんは、かえるくんがいっしょうけんめいにはげましているのに、ずっと「どうせこないよ。」とか言ってすなおじゃない。どうしてかえるくんの言っていることをきけないのだろう。でもいつの間にか言うことをきいたのがふしぎだった。

〇お手紙にはたった三行しか書いてないのにがまくんはよろこんでいる。それもまだとどいてないのに、まだ読んでいないのによろこんでいる。どうしてそんなにうれしいんだろ。

◎さいしょの方とさいごの方に同じ絵があった。場面は同じなのに顔がぜんぜんちがう。何があったのだろうか。

と言う感想ならば、よいめあてになります。すべて「最初と最後」を比べて読んでいます。◎の人はさし絵を比べています。さし絵も物語では大切なので感想に入れて良いのです。

まとめ

〇　その教材をつかう1ヶ月以上前から読み込みましょう。決して「初読」では感想は書きません。あくまで読み込んでからの「初発（第１回目）」の感想です。

●　お話とは関係ないこと、自分の好き嫌い、その場ではっと思いついたことなどは書かないようにしましょう。

〇　お話の最初と最後を読み比べることを大切にしましょう。

〇　主人公が大きく変わったことを中心にして「なぜだろうどうしてだろう、もしかしたらこうなのかな。」というふうに頭を働かせて書きましょう。

〇　疑問文の形で書きましょう。三文くらいは書きましょう。こうすると、めあてにむすびつきやすくなります。